

井尻公民館だより

(令和3年1月1日発行)

<令和3年1月号>

(第202号)

<連絡・問い合わせ先>館長 窪田 道忠 ()
主事 相澤陸奥実 ()

友禅をさらす犀川片時雨

三柵 淳

あけましておめでとうございます
本年もよろしく願いいたします



絵手紙愛好会

飯島和子

昨年には2020東京オリンピックが開催されると皆、楽しみにしていた矢先、新型コロナウイルスが世界を震撼させられ 現在も猛威を震っている先も見えない状況です。

今の社会の常識とか物の価値観が変わってきた感があります又、何よりも大切な人と人のふれあいが、大事なコミュニケーションが失われ行きそうです。

目に見えない敵と闘いであるが、新しい時代、新しい日常の意義を求め互いに緊張感を持った行動に努めて生活しましょう。

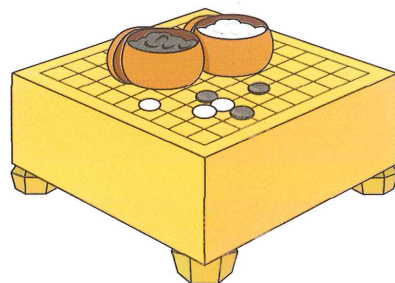
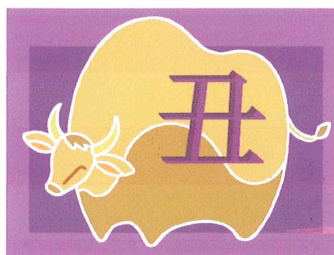
1月の行事予定

《松里囲碁クラブからのお知らせ》

新春囲碁会

日時：1月1日 (金) 午後1時～

場所：井尻公民館 一階和室



令和2年4月からコロナの感染拡大を受けて囲碁クラブの活動を自粛してきましたが、少しずつ感染対策が見えてきたことに加え、なんとかクラブの活動を継続させたいとの思いから、1月から再開をすることにしました。

囲碁は三蜜のさえるものですが、公民館使用に当たって一般的な対策(検温、手洗い、消毒等)を厳守し、対局中はマスクとフェイスシールドを併用して対話をせずに、部屋も三蜜をさけるよう工夫しながら行えば可能だと思います

なお、フェイスシールドは囲碁会で準備しますので、マスクをしておこしてください。

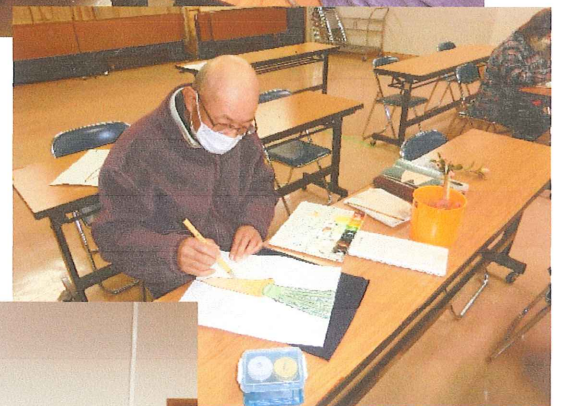
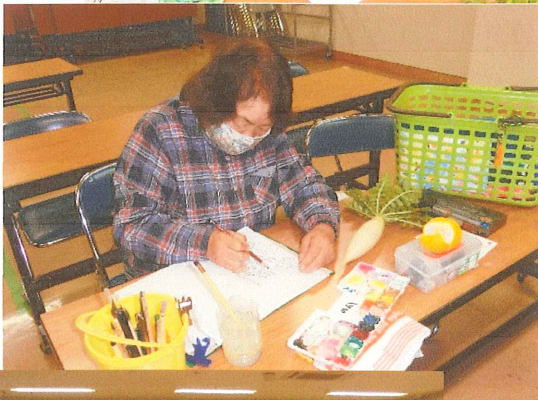
絵手紙愛好会・活躍中

愛好会は毎月2回、第一、第三、の金曜日、時間は午後7.30～公民館二階大ホールにて行っております。

教材は季節の草花、くだもの、野菜、その他多岐に及びます。作品については皆で評論を図りレベルの向上の糧としています。

「たより」の—1—に毎回会員の作品を掲載しております。

活動に当たっては、大ホールで3蜜を避け、感染対策チェックを厳守しております。愛好会ではいつでも会員の募集を行っております興味をお持ちの方をお待ちしております。



人間万事塞翁が馬

(にんげんばんじさいおうがうま)

昔、中国北方に住む馬飼う老人（塞翁）の馬が逃げ出していなくなった、人々が心配すると、老人は「何に今に良いことがあるよ」と言った、やがて、その馬が駿馬を連れて戻ってきた、人々が「良かった、良かった」と言った、老人は「今度はこれが不幸の基になり、何か悪いことが起きるかもしれない」と喜ばなかった、案の定、その馬に乗った老人の息子が落馬して足を骨折してしまった、人々が見舞いに行くと、老人は「これが幸福の基になるだろう」と言った、一年間後、戦争が始まり、健全な若者たちは連れていかれほとんど戦死した、しかし足を折った老人の息子は、兵役を免れたため戦死しなくて済んだ。

人生というのは固定的なものでなく、流動的なものであるから、幸福が不幸に、不幸が幸福に変わるかわからない。

「人間万事塞翁が馬」は中国二千年以上も前に書かれた思想書から生まれた故事成語です。「世の中に起きる悪いことも良いことも予期出来ず、それに振り回されてはならない」という意味です。

私たちは、いま、物や情報の溢れた世界で生きている、欲しいものは今や画面を片手でタッチすれば直ぐ簡単に手に入り欲望が快樂につながる。

「快樂の踏み車」という心理学用語がある、求めていた快樂もいったん手に入れてしまうと、その気持ちに慣れて最初の快樂が感じられなくなり、さらに強い刺激の快樂を求めてしまう、そういう人間の特性を表す用語である。

コロナウイルスで全てに不幸の波が押し寄せております、今、自粛疲れ、ストレス疲れとで緊張感が薄れ、気分転換でついつい快樂を求めての行動をしてしまいがちである一方では経済をまわす行動は必要であるしこのバランスをどうとるか難しい事である、感染をストップさせるには個々の行動、及び意識にかかっている。

お知らせ

2月20日（土）「生涯学習推進大会」が開催されますが、例年、第2部でおこなわれていた童謡フェスティバルが今回はコロナ関係で中止となりました。

公民館では童謡フェスティバルに向けての練習が有りましたが中止となりますのでご承知願います。

ふれあい祭の開催の件

3月6日（土）7日（日）に開催を予定しております。

今回は文化展（絵画、書道、手芸、絵手紙、俳句、川柳、井尻小の作品、他）のみとし、音楽部門は3蜜ついて避けられないため行いませんのでご理解願います。

文化展への作品参加の皆さん今から準備をお願い致します。

(俳句)

井尻公民館俳句愛好会 2020/11/24

村の灯は凍星のひかり中

(三柵 淳)

菜ばかりの寄せ鍋なれどあたたかし

(野村かね子)

寒星や街角に聴く聖歌隊

(増田英仁)

葡萄落葉からから道をよぎりをり

(三森美恵子)

慎もるる湖底の宇宙冬銀河

(飯島和子)

冬銀河怒濤のごとく第九果つ

(小笠原一子)

湯豆腐や滋味滋味踊り唄ひおり

(鶴田光子)

寄鍋や笛吹き川の青き淵

(小林昂平)

ネクタイをクルツと回し鍋奉行

(飯島武志)

(川柳)

井尻公民館川柳愛好会 2020/11/27

小事とて甘く見過ごし大事に

(久保 晃)

小型でも四人も運ぶ経済車

(広瀬 勝)

小柄でもしわに負けない八十路生き

(三井厚子)

恋人の小さな駅の伝言板

(田辺たみ子)

母がつなぐ小さな手今母ささえ

(古屋典子)

小言増え鏡に映る老けた顔

(雨宮江身子)

大中小揃うも合わぬ旅浴衣

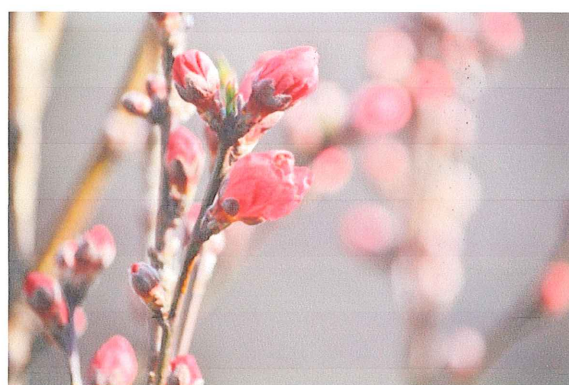
(中村廣一)

小気味好い所信表明肩すかし

(関口正次)

コロナ禍で小声小皿の無尽会

(飯島武志)



(短歌)

(古屋和子)

師走には例年通り枯露柿を

贈物にと仕上げに励む

天気良く柚が豊作玄関は

柚やかりんの香り漂う